これが、神の倍の力やで

明治十七年頃、教祖は土佐卯之助に
「今日は一つ、神の力を試してごらん。」
と、仰せになり、手拭の片隅を御自分の親指と人差指との間に挟んで、
「さあ、これを引いてごらん。」
と、差し出された。土佐は力一杯引っ張ったが、どうしても離れない。すると、教祖は笑いながら、
「さあ、もっと引いてごらん。遠慮は要らんで。」
と、仰せになった。土佐は満身の力をこめて引いても、その手拭は取れない。遂に「恐れ入りました。」と頭を下げた。すると、教祖は、今度は右の手をお出しになって、
「もう一度、試してごらん。さあ、今度は、この手首を握ってごらん。」
と、仰せになるので、恐る恐る教祖のお手を握らせて頂いた。教祖は、
「さあ、もっと強く、もっと強く。」
と、仰せ下さるのであるが、力を入れれば入れる程、土佐の手が痛くなるばかりであった。土佐は、遂に兜を脱いで「恐れ入りました。」と、お手を放して平伏した。すると、教祖は、
「これが、神の、倍の力やで。」
と、仰せになって、ニッコリなされた。
（稿本天理教教祖伝逸話篇一五二「倍の力」より抜粋）
この逸話から私たち人間は力を出せば出すほど、親神様はニッコリと、倍の力で返して下さるのだと悟ることができます。
ことおたすけにおいては、私たち自ら率先して、親神様がお受け取り下さる真実心を精一杯発揮させて頂きましょう。きっとお与えを頂けると思います。

本島大教会布教部（垣）

天理教本島大教会

教祖140年祭